

投書

気流



題字・角元正燦  
イラスト・今尾泰三

作る人きつと悲しい⑥ 食べ残し

小学生 相和 茉奈 12

学校で給食を食べ終わって片付けをしていたら、残っている人がいることに気づいた。作ってくれた人は、ちがきつと悲しいだろうな  
（奈良市）  
あと思った。給食以外の食事でも同じだ。一つ一つていねいに料理してくれたものを残して、捨てられるのは、とてももったいない。

嫌いな食べ物を残したい気持ちにはわかる。私も豆が苦手で、出てくると残したくなる。でも、育ててくれた人や料理をしてくれた人の気持ちを考えると残すことはできないので、パクツと口に入れるのだ。  
コンビニで売れ残ったお弁当やおにぎりなどの食品は、捨てているというところをテレビ番組で知った。食べ物が大量に捨てられる映像を、料理した人はどんな気持ちで見ているのだろう、と悲しくなった。  
私は、これからも食事は残さず食べようと思う。



張 序 肆 14(大阪市)

いじめる側に、間違っていると直接伝えることはハードルが高いかもしれない。でも「いじめは犯罪」と理解したり、それを共感できる仲間を持ったりできれば、減らせると思う。

少しの知識と勇気で友達を救える。

大学では、教諭を目指し勉強している。子どもたちを教える立場になったら、このことをしっかり伝えたい。

へ 知識と勇気を少し

た。その様子を見ていたが、正すことはできなかった。一緒に悪口を言ってしまったこともあった。次は、自分が標的になるのではないかと怖かったからだ。

あの時、声を出すことができていたら、友達に寄り添うことができていたら——今は後悔している。

笑顔☺心がけたら 友達増えたよ

中学生 御前 菜友 13  
（和歌山県有田市）  
小学校までの私は、人と話をするのが苦手で、あまり笑うこともなかった。静かで暗い性格だった。  
「このままじゃ、楽しくないまま学校生活が終わってしまう……」  
不安になって中学校では心機一転。笑顔で自分から話しかけたり、声を出して笑ったりするように心がけた。すると友達が増えた。私の周りにも集まってくれるようになった。笑顔って大切ななあと思った。

父はパティシエ あこがれの道の道

中学生 佐藤 凌太 14  
（千葉県浦安市）  
パティシエの父にあこがれて、夢は調理師です。パン屋もさせてもらいました。力強く繊細な作業は想像以上に疲れる仕事。僕の横で休まず立ち続け、はるかに多い仕事を手際よくこなす店長さんは、カッコいいと思いました。  
父から聞いた食品業界の大変さも学ぶことができて、貴

かぞくがくれた 名まえ大すき☺

小学生 萬木 夢乃 7  
（岡山県笠岡市）  
わたしの名まえは、ゆめのです。かぞくみんなでつけてくれました。  
名まえのゆめは、おかあさんとおねえちゃんの名まえに「くさかんむり」がついていて、おそろいにするために、おねえちゃんがじょでさがしてくれました。たくさん字のなかから、「ゆめ」をえらんでくれました。おかあさんにき

きました。  
わたしはこの名まえがすきです。みんなから「ゆめちゃん」といわれて、うれしいきもちになるからです。この名まえはかわいとおもいます。  
この名まえには、つけてくれたかぞくの「ゆめにむかって、げんきにたのしく」というねがいがこめられているとおもいます。  
そのねがいにこたえられるように、ごはんをもりもりたべてげんきになって、ともだちとたのしくあそびたいとおもいます。

考え事をしていると「怒ってるの？」とよく言われます。慌てて否定しますが、笑顔はやっぱり必要ですね。も本当に嫌だな、と思う時には、笑っているはだめです。気持ちをしっかり相手に伝えることを心がけたいですね。（磯）

投稿先 〒530・8551 読売新聞大阪本社「気流」係。  
ファクス (06・6366・1890)、電子メール = o-tousho@yomiuri.com 住所、氏名、年齢、職業、電話番号を明記。読売新聞の電子メディアに掲載することがあります。二重投稿は不可。投稿はオリジナルのみ。返却しません。採否の問い合わせはご遠慮ください。添削することがあります。川柳は3句まで。

◆U-25投稿募集  
原則25歳までの若者が対象のコーナーで火曜日に掲載。